

# 令和二年度 学校自己評価 中間報告書

石川県立七尾特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の判断基準	判定基準	集計結果	成果・後期に向けての改善
1 授業実践力の向上	① 教員が教科で指導案を作成し授業実践を行う。	研究研修課	年間2回以上、教科の指導案を作成し、授業実践を行った教師の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	9月末時点のアンケートでは2回以上教科の指導案を作成授業実践を行った教師の割合が30%だったので、評価はD	コロナ感染症の影響で6月から授業開始となり、授業案を書いて実践する期間がまだ短いと思われる。また、今年度の研究も授業開始遅れの影響を受けまだ進んでおらず、指導案を書いた授業実践がまだ本格的に行われていない。この後、各学部の研究で授業案を書いての授業実践を行う予定であり、対象となるすべての教員が取り組めるよう声を掛けていきたい。
	② ICT機器を授業の中で効果的に活用する。	情報教育課	授業でICT機器を活用した教員のクラスの割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	9月のアンケートでは、ICT機器を活用した教員のクラスの割合が100%であったので A	教員個人に授業でICT機器を活用したかアンケートを行った。はいと答えた割合は85%であったがいえと答えた教員は管理職や教育相談の教員等で授業にメインとして出していない教員であった。今年度はコロナによる休校期間中にオンライン用の教材を配信したことで、ICT機器に関わる機会が増え、活用法も向上したと考えられる。今後は、ICT機器が活用されていない教科にも効果的に活用できるように取り組みたい。

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の判断基準	判定基準	集計結果	成果・後期に向けての改善
2 組織的・系統的なキャリア教育	① 家で自分の役割を継続して行うことができる。	小学部	家庭で決めた役割について、 <b>9月12月</b> の一週間のうち、4日以上できた児童生徒の割合 A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	9月のアンケートでは、62.5%の児童ができたので B	児童ごとに課題を1～3つ決め、1日ですべての課題に○がついた日を1日とカウントした。4日以上できた児童は60%を超えていた。ただ、すべての課題に○がついていないといけなないので、1つだけでいてもカウントしていないため、このような数値になった。今後は、丸のつかない課題を学校と家庭と連携しながら、引き続き取り組んでいく必要がある。
		中学部			9月のアンケートでは、75.7%の生徒ができたので A	生徒ごとに課題を1～3つ決め、1日ですべての課題に○がついた日を1日とカウントとした。4日以上できた生徒は70%を超えていた。日常生活でできることを基本に目標を設定したため、無理なく取り組めたとの感想もいただいた。今後は、現在の活動の定着と、新たな役割や活動にもチャレンジできるよう、学校と家庭が連携しながら、引き続き取り組んでいきたい。
		高等部			9月のアンケートでは、23.87%の生徒ができたので D	生徒ごとに家庭でできそうな役割や活動について目標を立てて、1週間のうち4日以上取り組めた割合が23.8%であった。日々の生活の中で、意識していくことは難しいが、継続して取り組みたいという意見が多かった。

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の判断基準	判定基準	集計結果	成果・後期に向けての改善
3 安心・安全な学校づくり	① 各学部、各クラスで防災に関する学習を取り入れる。	生徒指導課	年間2回以上、各クラスで防災リュックに関する確認や学習を行ったクラスの割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	評価 D (41%)	9月段階で2回以上行なっているクラスの割合は41%であった。1回は行なっているクラスが48%あるので、今後も継続して防災リュックを2学期末に持ち帰る際や3学期初めに持ってきた際の確認を呼び掛けたい。また、全く行っていないクラスが11%あり、クラスの実態に応じた学習も呼び掛けていきたい。
	② 性に関する指導を行った際に使用した教材等を集めるフォルダを、校内サーバー上に作成する。	健康推進課	「性に関する指導」計画の分類の中で、1つ以上の教材が作成されている項目の割合 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	R2.9時点で、1つ以上の教材が作成されている指導項目の割合は、小学部が78.3%、中学部が61.5%、高等部が50.0%であった。 評価 小学部：C 中学部：D 高等部：D	教材等を集めるフォルダを、校内サーバー上に作成し、夏休みに指定のフォルダに保存してもらうよう各教員に協力を仰いだ。教材が作成されている項目の割合は、どの学部も80%未満であったが、「性に関する指導」計画の指導項目に沿って、今年度新たに作成された教材もみられ、少しずつ性に関する指導の充実化が図られている。今後は、さらに教材が充実するよう、健康推進課を中心に教材の作成に取り組んでいきたい。
4 業務改善に向けた意識改革	① 各学部・課の業務の実施において、チームで業務に当たり一人一人の負担を軽減しミスをなくす。	全教員	学部や課においてチームで業務にあたることで業務が平準化された。 A あてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない A+Bの割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	9月の教職員のアンケートより、A+Bの割合が 小学部で76.1% 中学部で61.5% 高等部で65.5% 分教室で100% 全体では71.4%で 評価 B	業務改善が重点目標となり、数年来継続して取り組んでいる。教職員にも業務改善に向けた意識はスタンダードになってきている。今年度は、学部や課においてチームで業務にあたることで平準化に取り組んだ。課によっては業務分担を配慮したり、小グループ編制で業務を担当したりするようにした。学部では主任の授業時数を配慮したり、授業のスタンダードを示したりして平準化を図った。また校務支援システムの運用も効率的になった。ただ、単に業務の平準化を目標にすると、平等にすることに意識が向いてしまい、質の悪化が懸念される。立場やキャリアに応じた適切な仕事内容を考慮し、業務の質を向上させるという見方が課題となる。